
中学生たちの春

大賀

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

中学生たちの春

【NZコード】

N7160A

【作者名】

大賀

【あらすじ】

南湖の好きな人が分かつた幸谷は…

大きな驚き

「こいつとくけど、オレ何も聞いてないよ。」

幸谷は南湖ちゃんの様子がいつもと違つと感じたのか、安心をせるかのようにやう言った。

「本当に？絶対？」

「ああ」

「良かつたあ～」

南湖ちゃんは力つきたようにヘタツと椅子に座りこんだ。

「でも、女子がこんなに必死になるつてことは……どうせ恋バナだろ？」

「まあね」

南湖ちゃんの目があたしになんでこいつちやつたの？と聞いてくる。

幸谷は、あたしたちのいる机の近くに椅子を持ってきた。

顔をちょっと怪しげにして。

「んで、誰なんだよ。南湖の好きな人はやつぱり。聞くと思った。

「…教えてない」

「いいじゃん！」

「かつ…神坂…………卓也先輩…………」

「ええ～～マジかよ！！！」

「なんでそんなに驚いてんの！？」

「…意外だったから」

口を開けたまま、ずっと驚いている。

「ねえ、本当に誰にもいつちやダメだからねー…

…何も言わない幸谷。そして、ダツと教室を飛び出しちつた。

ポカーンとするあたしと南湖ちゃん。

あたしの好きな人は…（前書き）

これは、南湖の好きな人からいきなり沙也香の好きな人の話になつてしましました。変な展開で、おかしいですが、ぜひ読んでみてください。

あたしの好きな人は…

「幸谷…どうしたの？…今、いつちゅうつたけど」

「…さあ」

あたしと南湖ちゃんは、幸谷の謎の行動がわからないまま、帰りのバスの中に乗り込んだ。

この学校は、バス通学なのだ。中学校から家がめちゃくちゃ離れているという点もあるだ。

バスのいつもの特等席に2人して陣取り、座る。流れしていく外の景色を目で追いかけながら、あたしと南湖ちゃんの恋バナタイムが始まった！！

「ねえ、神坂先輩と同じクラスの佐藤先輩、あの人付き合ってる人いるんだってえ～」

「マジ！？あたしあの人は狙つてたのにい」

「えっ、そうだつたの？知らなかつた」

こうして小さい声でこんな話をするのがけつこう楽しい。でも、他の人に聞こえるかもしれないといつところがちよつと…

「えっ、佐藤先輩つてあの…野球でピッチャーやってる先輩だよな？」

ほらほら…やつぱり…こう話を聞きつけて、入つてくるやつがいた同じクラスの森しんだ。まあ、それについてのつて言つてしまつあたしもダメなんだけどね。

「そうそう！そのピッチャーの、佐藤圭先輩けい」

「えっ！お前あの人狙つてたのか？」

「そうだつたんだけどね…今の南湖ちゃんの話聞いたでしょ」

「それつて、失恋つていうんじやねえの？」

「でも、ホントに好きつていうわけでもなかつたし。別にいいんだ」

森は、後ろの席から少し身を乗り出した。

「で、沙也香、お前の好きな人は？」

絶対面白がっている。

「いや、いないよ」

「なんだ、つまんね の」

そう、あたしの好きな人はあんた（森）だから。なんて言えるわけないじやん。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7160a/>

中学生たちの春

2010年12月2日15時19分発行